様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2024
課題番号：２１Ｋ０２６４８

研究課題名（和文）大学における国際教育交流スタッフの専門性と職能開発に関する実証的比較研究

研究課題名（英文）Empirical comparative research into the professional expertise and professional development of international office staff at universities

研究代表者
渡部　留美（Watanabe, Rumi）

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：９０３９７７８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大学における国際教育交流スタッフの専門性と職能開発について、国内外の事例を収集し、インタビューのデータをもとに実証的比較研究を行った。10年程度経験のある職員に対しては、大学で業務を担当するに至った経緯、必要とされる専門性、キャリアの方向性、研修機会と自己研鑽、についてきき、管理職の立場にある職員に対しては、部署にいる職員がもつ専門性、必要とする専門性、職員が利用できる研鑽機会、専門性向上のための工夫、職員のキャリアパスとそのための支援の有無について、カテゴリーごとにコーディングを行い、傾向を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
世界の大学の国際競争は激化しており、日本の大学においても、大学の国際化の推進が至上命題となっている。一部の分野では大学スタッフの専門職化が進んでいるが、国際教育交流分野においても導入が期待されている。本研究では、日本の大学のなかで、国際教育交流が先進的な大学を調査対象とし、ある程度経験のあるスタッフ、また部署を管理する立場にあるスタッフに対し、部署の運営の工夫や課題、雇用形態のあり方について検討し提案をおこなうことで、日本の大学の発展に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted empirical comparative research on the expertise and professional development of international education exchange staff at universities, collecting cases from both Japan and abroad and analyzing interview data. For staff with approximately 10 years of experience, we asked about their path to taking on university responsibilities, required expertise, career directions, training opportunities, and self-development. For staff in managerial positions, we coded by category and identified trends regarding the expertise held by staff in their departments, required expertise, available development opportunities, initiatives for enhancing expertise, and the presence or absence of career path support for staff.

研究分野：国際教育交流

キーワード：大学の国際化　国際教育交流　スタッフ　専門性　キャリア　職能開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)　ここ 20 年ほどの間で、日本の大学に勤務する教職員が多様化してきている。日本社会の構造の変化、社会からの大学へのニーズと役割の変化、また個人の働き方に対する意識の変化なども大きく関係している。現在では、学生支援、キャリア支援、教職員の学術支援、ICT、など幅広い分野において専門界あるいは専門的知識をもった人材が大学において活躍している。

(2) 労働者の非正規化は日本全体で起こっていることであり、厚生労働省（2020）の資料によると、非正規の職員・従業員は 2009 年の 1727 万人から 2019 年の 2165 万人と明らかに増加している。雇用側の賃金コストの節約や雇用される側の自由な働き方を求める傾向が増えたこと、サービス産業の増加が挙げられるが、大学の国際教育交流部署の非正規職員の割合が高い背景には、大学の予算の削減や競争的資金をもとにしたプロジェクトの増加が挙げられる。しかしながら、大学の国際教育交流部署には、高い専門性をもった人材が必要とされることが特徴的であるといえる。本科研費の前段階の 2018 年度-2021 年度の研究では、有期雇用職員を対象とし調査を行い、彼らの抱える課題に対する改善点の提案をおこなったが、正規職員として雇用されたスタッフがどのような専門性をもち、キャリアアップを行っているのか、また管理する立場にある職員は職場の運営やスタッフのキャリアパスをどのように捉えているのかを明らかにすることにより、現場の各構成員の役割や大学への貢献度合いを体系的に捉えることができる。

(3) 新型コロナウィルスは国際教育交流に多大な影響をもたらしている。物理的な留学交流が閉ざされ、留学生の受入と国内学生の派遣が滞ったままの状態が続き、キャンパスに国際的な環境を作るのに苦慮している大学は多い。状況を打開するために、教育面においては、オンライン、対面、オンデマンドなどを融合させたブレンド型学習（Blended teaching）が通常になるなか、危機を機会と捉え臨機応変に対応し、事務的な業務においては、常に最新のコロナウィルスの情報や海外の大学の動向等を収集するなど、国際化を推進させることのできる能力も重要になっている。そのようななか、スタッフに求められる専門性に変化が生じているのか、を探ることにより、現代に求められるスタッフ像を明らかにする必要がある。

２．研究の目的

本研究では、第一に、キャリア開発論、人材育成論、コロナウィルスなど危機的状況における必要な専門性など国内外の先行研究を収集し、理論の整理を行う。次に、with コロナ時代における国際教育交流部署に必要とされる人材と専門性について研究の枠組み、仮説を立てる。第二に、これまで行ってきた非正規スタッフに対する調査データを元に分析を行いながら、必要に応じてデータの追加や量的調査を行い、非正規スタッフの持つ専門性について体系的に明らかにする。第三に、スタッフを募集する際の応募要領などの収集、分析を行い、どのような専門性を求めているのか明らかにし、採用経験者に実際の採用状況や職場で期待する専門性などについてヒアリングを行う。第四に、海外の大学の国際教育交流部署の事例を収集する。

３．研究の方法

(1)日本の大学における国際教育交流関係の事務職員に求められている専門性や職歴について知見を得るため、公募文書のデータ約半年分を収集する。そして、担当スタッフがもつ職務内容、専門性などについて明らかにする。

(2) 国内の大学で国際化や国際教育交流スタッフ、戦略的に国際教育交流を推進している大学を抽出し、インタビュー調査を実施する。

４．研究成果

(1)国内の大学の調査

日本の大学における国際教育交流関係の事務職員の公募文書のデータ約半年分を収集し、職務内容、求められる専門性などについて分析を行なった。それをもとに、インタビューで聞く質問内容の検討をおこなった。既に発行されている関係学術雑誌で紹介されている戦略的に国際教育交流を推進している大学を抽出し、20 数校から、研究者で大学の規模や地域等を考慮しながら、10 校程度に絞った。10 年程度国際教育交流部署で実務経験のある国際教育交流スタッフ、および、管理職についている国際教育交流部署の事務職員に対し、インタビュー調査を実施した。

また、大学で雇用している学生スタッフも調査対象として広げ、8 名の学生に EQPI（EQ 理論をもとに開発された検査）を実施し、その結果に基づいたインタビュー、また PAC 分析を行い、学生スタッフに必要な専門性や業務をおこなうことで得られた専門性、将来のキャリアとの関係などについてきいた。大学職員として雇用されているスタッフと学生スタッフとして雇用されている学生では必要とされる専門性に相違や共通点があるのかについて分析予定である。

(2)海外の大学の調査

2022 年度に英国ヨーク大学、イーストアングリア大学、2023 年度に米国テキサス大学、ベイラー大学を訪問した際、それぞれの大学が雇用している学生スタッフに会い、スタッフになった経緯、専門分野との関係、キャリアの活かし方、などについて聞き取りをおこなった。2024 年度に豪州マッコリー大学を訪問した際、また学生支援ブースを設けている部署を訪問し、見学をおこなった。

(3)研究会の開催

2025 年 3 月 7 日に東北大学川内キャンパスにおいて、「現代の国際系担当者に求められる専門性とキャリアパス～担当者の経験から学び、自身のキャリアパスを考える～」（留学生教育学会分科会との共催）を開催した。私立大学の事務職員、国立大学の教員を招き、国際教育交流に携わる立場から、必要とされる専門性やキャリア形成について講演をいただき、後半では参加者全体で SWOT 分析手法を用いたワークショップを行なった。

＜研究会報告＞

https://jaise.site/news/news20250505/

このワークショップをもとに、国際教育交流担当者向けの研修内容を構築予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 渡部留美・新見有紀子	４．巻 10
２．論文標題 ピアサポートによる留学生支援ーコロナ禍の経験を経た留学生ヘルプデスクの現在ー	５．発行年 2024年
３．雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	６．最初と最後の頁 147-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡部留美、新見有紀子	４．巻 8
２．論文標題 ピアサポートによる留学生支援 －東北大学留学生オンラインヘルプデスクの試み－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	６．最初と最後の頁 pp.259-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 渡部留美
２．発表標題 新入留学生を対象とした テーマ別オリエンテーションの実践 -東北大学23年秋学期受入れの事例から-
３．学会等名 留学生交流・指導研究会
４．発表年 2024年

１．発表者名 秋庭裕子
２．発表標題 日本の留学生の動向
３．学会等名 第23回 びんご多文化共生連続ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 渡部留美
２．発表標題 学生による留学生支援―ピア・サポートの利点と課題―
３．学会等名 第27回留学生教育学会・年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 米澤由香子・坂本友香・秋庭裕子
２．発表標題 米国の大学における国際教育担当者のキャリア形成と動機づけ ―インタビュー調査より―
３．学会等名 日本比較教育学会第58 回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 渡部留美
２．発表標題 コロナ禍の留学生支援ー東北大学の事例ー
３．学会等名 2021年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 秋庭裕子、平井達也、米澤由香子
２．発表標題 多文化ファシリテーション能力に関する基礎的研究－近接分野の文献レビューを通して－
３．学会等名 異文化間教育学会第42回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Suematsu, K., Akiba, H., Yonezawa, Y., & Hirai, T.
２．発表標題 We can still make our classes diverse and interactive: Development of online intercultural collaborative learning classes
３．学会等名 AIEA Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計7件

１．著者名 末松 和子(編)　渡部留美（第10章執筆）	４．発行年 2024年
２．出版社 東北大学出版会	５．総ページ数 224
３．書名 新時代の国際教育交流に向けて	

１．著者名 秋庭裕子、米澤由香子（編）	４．発行年 2023年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 192
３．書名 多文化ファシリテーション：多様性を活かして学び合う教育実践	

１．著者名 秋庭裕子、筆内美砂、堀江未来、松本哲彦（編）	４．発行年 2024年
２．出版社 学文社	５．総ページ数 226
３．書名 国際教育で育む異文化感受性：多文化環境での対話的で深い学びのために	

１．著者名 米澤由香子	４．発行年 2022年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 264
３．書名 「国際教育関係組織」(p106)異文化間教育学会編著	

１．著者名 秋庭裕子	４．発行年 2022年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 264
３．書名 「外国人留学生政策」(p104-105) 異文化間教育学会編著	

１．著者名 秋庭裕子	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 311
３．書名 「コロナ禍で留学希望の学生をどう支えていくのか：オンライン国際交流にみる可能性と課題」（pp.159-176.）村田晶子（編）『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』	

１．著者名 秋庭裕子（村田晶子編著）	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 320
３．書名 「コロナ禍で留学希望の学生をどう支えていくのか：オンライン国際交流にみる可能性と課題」『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	秋庭　裕子 (Akiba Hiroko) (10313826)	一橋大学・大学院経営管理研究科・講師 (12613)	
研究分担者	坂本　友香 (Sakamoto Yuka) (30814230)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・特任准教授 (11301)	
研究分担者	米澤　由香子 (Yonezawa Yukako) (60597764)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授 (11301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関